バーチャルオフィスシステム(oVice)を活用した

当技術発表会のポスター発表について

発表者氏名：加藤俊之　　技術分野　：情報通信　　発表形式　：ポスター発表

所　　属　：情報通信技術支援室情報教育支援技術グループ

共同発表者氏名：

大川敏生（情報通信技術支援室　情報教育支援技術グループ）

概要

2020 年に世界を襲ったコロナ禍以降、リモート会議やバーチャルオフィスの需要が高まり、各社からさまざまなプラットフォームがリリースされ、多くの現場で活用されている。

oVice(https://www.ovice.in/ja/)は、まさにそのコロナ禍の始まった 2020 年 2 月に設立された oVice 株式会社（石川県七尾市）によりリリースされたバーチャルオフィスシステムである。

各地で開催される研究会等においてリモートで開催される事例が増加しているが、従来存在するリモート会議システム（Zoom、Teams 等）を利用した研究会の場合、口頭発表(1 対 n)であれば、演者の資料や映像が聴講者に配信され、質疑応答も可能である。ただし、ポスター発表(n 対 n)のような不特定な複数のメンバーによるディスカッションは、リモート会議システムではとても煩雑な操作を要求される。

それに対して oVice は、参加者がアバター（アイコン）として 2 次元空間に表示され、マウス等の操作によりアバター同士を近接させて「立ち話」を行う形でコミュニケーションを行うのが中心となっている。これにより、不特定な複数のメンバーによるディスカッションを容易としている。

本発表では oVice のさまざまな場面での活用例と、oVice を用いたコミュニケーションの具体的な方法について紹介する。

なお、メタバースサービスにおける同様のサービスとしては SpatialChat(https://www.spatial.chat/)も有名だが、料金の支払いやサポートに少々難点があり、oVice は日本語対応が可能な点が優位である。oVice は、2022 年度に大阪大学で開催された「機器・分析技術研究会」のポスター発表においても採用された。

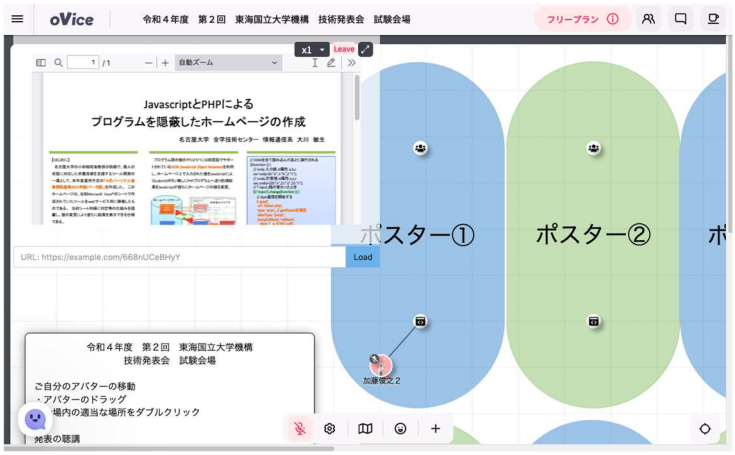

図 1. oVice による研究会のポスター発表の例